

令和6年度 第1回豊中市生活支援サービス部会

令和6年(2024年)11月29日(金)
午後3時30分～午後5時
地域共生センター西館3階会議室
及びZoom

《出席状況》豊中市生活支援サービス部会委員総数5名中5名出席)

豊中市生活支援サービス部会
◎小野委員、○大野委員、今井委員、松永委員、當内委員

(◎＝部会長 ○＝副部会長 委員名簿順)

事務局
福祉部 地域共生課：畑山課長補佐 長寿安心課：森本課長、島田副主幹 長寿社会政策課：坂口福祉部次長兼課長、松宮課長補佐、高木係長、望月主査 大脇主査、福田、西川 豊中市社会福祉協議会 勝部事務局長、吉田課長、中村

《傍聴者》 なし

《議題》

1. 副部会長の指名について
2. 令和6年度生活支援コーディネーター活動報告、及び第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（令和3年度～令和5年度）の生活支援コーディネーターの活動結果について
3. 令和7年度生活支援コーディネーター活動計画（案）について

《議事内容》

事務局 定刻になりましたので、令和6年度第1回豊中市生活支援サービス部会を開会いたします。

本日は、お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。

本日の出席状況を報告いたします。

部会員5名のうち、5名全員が出席いただいております。したがって、要綱で定める部会の過半数を超えておりますので、本日の部会は成立しております。

事務局

【WEBの説明、委員紹介、資料の確認】

議案1

■副部会長の指名

部会長

それでは、次第に従って進めてまいります。

議題の1、副部会長の指名です。

今回から私が部会長となりまして、昨年度まで副部会長を務めていただいた泰先生が本会から退任されております。新たに副部会長を指名する必要があります。要綱によりますと部会長が副部会長を指名することになっておりますので、私から指名させていただきます。昨年まで部会長を担っていただいていた大野先生にお願いできればと考えております。大野先生、いかがでしょうか。

部会員

ありがとうございます。お引受けいたします。よろしくお願いします。

部会長

よろしくお願いします。

それでは、議題2に参ります。

令和6年度生活支援コーディネーター活動状況報告、及び第8期高齢者保健福祉計画（令和3年度～令和5年度）の生活支援コーディネーターの活動結果について。事務局から説明をお願いいたします。

議案2

■令和6年度生活支援コーディネーター活動報告、及び第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（令和3年度～令和5年度）の生活支援コーディネーターの活動結果について

事務局

【資料1】「生活支援コーディネーター実施内容（令和6年4月～10月）」

【資料1別紙】「介護予防お助け隊内容一覧表」

【追加資料1】「介護予防・日常生活支援総合事業について ささえあいの地域づくりをめざして ～CSWと生活支援コーディネーターの取り組み～」

【追加資料2】「生活支援コーディネーターニュース ～ささえあいの地域づくりを目指して～」

【追加資料3】「生活支援コーディネーター関連施策の報告について（令和3年度～令和5年度）」の説明

部会長

ありがとうございました。

資料を見ながら確認していただければと思いますが、部会長の立場で何ですけど、本当に豊中の活動をいつも聞くたびに新しいのがどんどん育っていて半分悔しい気持ちもありますが、すばらしい、いろいろな活動があるかと思っています。もちろんその中でもいろんな課題もあるかと思っていますので、皆さんのほうから少しご意見を出していただきながら内容を確認して、どういうことかというあたりを指摘できたらと思います。

様々なことがありましたけれども、どこからでも結構ですので、何かご意見があればお願いしたいと思います。

全体としては、先ほど事務局長からありましたように、コロナ前の活動、その時点でもかなりいろいろあったと思いますが、それがコロナによって、これは豊中だけではなくて、どこもかなり制限を受けてきました。それが近年回復、さらにはそれ以上の新しいものも生まれているという、そういう状況だと見てとれるかと思いますが、気になるところもあるかと思いますが、いかがでしょうか、ご意見いただければと思います。

部会員 C S Wと生活支援コーディネーターを兼務するというお話があったかと思いますが、これは将来的に生活支援コーディネーターだけの資格で取れたりするのでしょうか。介護福祉士さんは何年間か経験してからでないとその資格が取れないというようなのがあったかと思いますが、生活支援コーディネーターとC S Wは何かそういう法則のようなものがあったら教えてください。

事務局 特に法則はないのですが、やっていることが高齢者の社会参加のメニューをどんどんつくっていくことだったり、高齢者の支え合いのためのいろんな仕組みを作ったり、事業を開発したりしています。高齢者はどんどん増えていますので、当初と比べると、だんだんとやることやメニューを増やしていかなければいけないということで、業務が増えていっている部分も大きいのですが、住民主体でできるだけそこを担ってもらえるようにということで進めています。大阪府内でもC S Wと生活支援コーディネーターは別々にやっているところもありますし、豊中もどのような形でやるかということについては当初いろいろと議論はあったんですが、例えば全然違う法人が生活支援コーディネーターだけをやっている、校区福祉委員会に対してとか第3層のところにC S Wが入るときもあれば、違う法人からいろんなことを言うてくることもあったりすると、地域全体があれもこれもやれと言われているみたいな感じになってしまうので、豊中では一緒にやりましょうということでスタートしています。

ただ、今後はずっと兼務がいいのか、あるいはここだけを専門にやったほうがいいのかというのは、全体の業務の内容を見ながら進んでいくかなと思っているのですが、C S Wを5年やったから生活支援コーディネーターになるというわけではないです。

部会員 ありがとうございます。

部会長 では、せっかくですので、確認というか方向性なんです、CSWは様々なニーズに応えていこう、生活支援コーディネーターは基本は一応高齢者をベースに置きますよという、そういう分けがありますけど、そのあたりの重なり具合というか、広がり具合というか、どうなんでしょうか。どちらかというと広がっているような形なのか、ある程度やっぱり制限しながらやっていこうと思っているのか、そのあたりの感覚的なものですね、どんな形でやっているかというようなことを少し教えていただければと思います。

事務局 ここに重層が入っているんです。「重層的支援体制整備事業」という、例えば先ほど言いました「福祉便利屋事業」というのも高齢者が高齢者を支えるという仕組みでスタートしているんですが、それだけだとすぐに限界が来るのです。高齢者同士だとできることの限界があります。重層という話で出るとCSWのほうで、例えばひきこもりの人たちとかの支援をやっている人たちが、ここを一緒に手伝えるようにしていくといった形で、少し仕事を相乗りしながらサポートできたり、いろいろと考えながらやっているところなんです。

単体で全部に事業をそれぞれで作っていると、またここにはさまができてしまうので、できるだけサポートが、いろんな事業がいろんな人たちの相乗りでできるようにというのが今回の重層の考え方でもありますので、そういうところで少し整理したり、また必要なものを拡大していきながらと思っていますが、今のところ何とか頑張っているというところなんです。

部会員 少々無知なところがあるので、手前のところから教えていただきたいのですが、私、介護保険事業者連絡会の訪問部会という立場で来させていただいておりますが、ふだんの業務は整形外科で、けがをされた方を診たりしている者として、元気な高齢と出会うことはたくさんあるのですが、こういった取り組みがまず私たちが無知であるためにつなぐことがなかなかできていない、取りこぼしているなど今お話を伺っていて思います。そういった、ああ、あの人いいなと思ったときに、どういった形で繋げていけばいいのか教えていただきたいなと思います。

事務局 例えば、この生活支援コーディネーターニュースを見ていただきますと、「ぐんぐん元気塾」の北条校区ですと、毎週木曜日にやっているところと毎週水曜日にやっているところと2か所あります。こちらについては、希望される方や、該当される方がおられたら、事務局につないでいただきますとご紹介して、どなたでも参加いただけるという形になっています。ただ、全体としては、もう満杯です。

部会員 そうなんですか。

事務局 ただし、人数が多いところは2か所に分けたり、さらに2部制に変えたりして、極力待機がないように対応されています。コロナのときは時間を短縮したり2部制にしたり、人数を半分にしたり2回に分けたりということもして

いただいていた時期もありますので、地域の方々のご希望を聞いて対応していただく。それから、便利屋さんなどにつきましては、よくご存じのケアマネジャーはしょっちゅうご連絡があります。

こういう事業についての情報を事業所の中で把握されているところは次々とご相談が入ってくるというところもあるんですが、ちょっとした助け合いじゃないような、大規模なお庭の草むしりや、大きな松の木の剪定とかという話になると素人ではできないので、そういうものはお断りする場合がありますが、「介護予防フォーラム」というのもやらせていただいておりますので、介護事業の連絡会、事業所連絡会の皆さんにもご案内をさせていただいておりますので、ぜひ、そういうところへ情報をどんどん取ってくださいとお知らせしてもらったり、また必要であれば、事業者連絡会さんのほうにも案内に伺うことはできるかなと思っていますので、よろしくお願いします。

部会員

ありがとうございます。

もう一点ありまして、私シルバー人材センターがくらしかんにあるというのは何となく知っていましたが、シルバー人材センターと福祉便利屋事業は、別のものなのですか。それとも、ちょっと似ているところがあるようなサービスなんですか。

事務局

シルバーさんは、どっちかという、がつつり仕事したい人が……。

部会員

がつつりの方なんですね。

事務局

はい。うちは15分ぐらいの仕事でいいやと思っている人が多い感じです。だから、あまりがつつりお仕事をと思っている人たちはこちらへは来られないです。ですから、すみ分けはシルバーの方々も協議体に入っているの、どんなふうにするかということなんですが、簡単なことはシルバーさんはなかなかやりにくいですね。

部会員

そうなんですね。

事務局

200円や500円ぐらいで終わるというよりは、やっぱりある程度決まった日時でずっと定期で入るようなお仕事を望まれていたりするので、そういうすみ分けをさせていただいています。もちろんうちでできない場合はご相談したり、シルバーさんから回ってくるということもあります。

部会員

ありがとうございます。

部会長

「ぐんぐん元気塾」、満杯という話がありましたね。すごいことです。

ほかにいかがでしょうか。

部会員

様々な魅力的な活動を聞かせていただきまして、ありがとうございました。2つあるのですが、2つとも今ご説明いただいた活動に直結しないかもしれませんが、もしお気づきの点があったら教えてほしいです。1つ目は多文化共生ボランティアのお話を先ほどご説明いただいて、多くのそういった支援ができる住民さんがいることに驚きましたが、一方で今本当に日本で生活する外国人、様々な課題をお持ちの方も多いと思うのです。ですので、きつ

とこういうボランティアは、さらに必要な場面、期待される場面が増えるのではないかと思います。実際この活動を通して今後こういうことが必要になるのではないかなとか、もう既にこんな課題が見えてるよみたいなことがあれば教えていただきたいというのが1つです。

もう一つは、今身寄りのない高齢者の問題が、いろんなところで聞かれています。私、医療ソーシャルワークのほうが専門になるのですが、やはり病気であるとかターミナルに近くなって、いざというときに身寄りがないということで非常にみんなが困るといったケースが多いのです。こういった生活支援で少しお元気なときから地域の中の高齢者を見ているということが、いわゆる身寄りがないということで問題となっている人まで、ちょっと時間の余裕があると思うのですが、どんなふうに連携とかつながる今後の展開の可能性みたいなものがあると考えておられるのか、ぜひ何かポジティブなお話を聞かせていただければなと思いました。

事務局

ありがとうございます。多文化ボランティアに関しては、これから7,000人、またさらに外国人労働者が豊中市内にも増えていますので、そういう方々を豊中市内では国際交流センターという外国人支援の拠点がありまして、そこがこれまで中心的に支えているということで、私たちもそういうふうに認識しておりましたが、コロナのときに社会福祉協議会に特例貸付ということで、コロナで減収された方のご相談で外国人の人たちが殺到いたしまして、飲食とか、それからいろんなお仕事が休業になった方々がたくさんおられまして、今は日常的に外国人の方々がご相談に来られるようになりました。

多くの方々が国際交流センターに行っている状態でなく、生活を必死でされているような方々がいて、そこにはお子さんもおられたりして、少なくともその子供たちの学習支援であったりサポートみたいなことが地域で、各地区でできるようにしていきたいなと思っておりまして、いずれは7圏域で拠点をつくって、それぞれのところでサポートしたり、もっと言いますと、主任児童委員さんとかと一緒に訪問できるような、そんな関係ができるところまで広がればということで、フィリピン、ネパール、ウクライナ等、カテゴリー別にいろいろと応援させていただいておりますが、今後はそういう方向性に広がっていけばと思っております。思った以上に豊中市内には外国に赴任していた人が多く、日本のコミュニティーはあまり持ったことがない人たちだったというのが分かりましたので、新しい掛け算になるかなと可能性を感じているところです。

それから、もう一つの身寄り問題は、これも本当に先生おっしゃるとおりで、我々は社協のプログラムの中では日常生活自立支援事業という金銭管理の仕事だったり、成年後見の取組み、一人暮らしの方々の会、親亡き後の障害者のお子さんを抱えていらっしゃる親御さんの会など、様々な団体やご家

族からご相談を聞く中で、身寄り問題はとても深刻に受け止めております。例えば認知症の家族会でオレンジカフェができると、その小さなグループごとでLINEのチームができて助け合いが始まり、徘徊して行方不明になった人をみんなで探し合うような、そういうネットワークができてきたり、小さな助け合いがあちこちで広がっています。

そうやって困ったときに、すぐに相談できるように関係をどうつくっていくかというのは、これからも大切かなと思っておりますが、一方で身寄りそのものの問題につきましては、今、別プログラムを立ち上げておりまして、身寄り問題のフォーラムや懇談会をしておりまして、様々に深掘りしていく必要があるかなということで、そういった検討会はCSWのほうで進めている事業となっております。

部会長

ありがとうございます。

それでは、議題の3に参ります。

議題の3は令和7年度生活支援コーディネーター活動計画（案）についてということになりますので、こちら事務局から説明をよろしくお願ひします。

議案3

事務局

■令和7年度生活支援コーディネーター活動計画（案）について

【資料2】「令和7年度（2025年度）生活支援コーディネーター活動計画」の説明

部会長

ありがとうございました。

令和7年度ということで、次年度の取組みについてのご説明がありました。皆さんのほうからご質問、ご意見あればお願いしたいと思います。

ではまず、私のほうから。もう本当にパワフルなんですけど、これはいろんな意味でちょっと伺いたいことがありまして、それぞれ第1層、第2層、第3層で協議体を持っていて、先ほどのような具体的なプログラムが出てくるわけなんだと思いますが、実際にはどこでああいったプログラムが考えられていくのかとかいうか、1層の場合には恐らく市全体のことを考えていますから1層のところは分かるんですけど、2層、3層のあたり、特に3層は2層がサポートするという話もありましたので、そうなんだろうなという感じになったんですけど、ああいう事業とかプログラムを生み出して、合意形成しながら生み出していくところのその仕組みをちょっと確認させてもらいたいです。仕組みの内容、方法です。1層、2層、3層の関係をお願いします。

事務局

1層は協議体全体の中の地域課題で、どういうふうな高齢者の社会参加が必要かとかということをみんなでいろいろ当事者の方々や地域の方々のご意見を聞く中で、こういうことだったらできるよとか、いろんな供給をしてくださる方々のアイデアなどで企画をしていくわけですが、3層はやはり「福祉便利屋事業」と「ぐんぐん元気塾」、これはマストでやっています。これは

どこの地区でも進めていただきたいなということでやっているのですが、地域課題がそれぞれ違います。

例えば、千里は千里丘陵、非常に坂が多い地区ですので、買物のことでお困りの方がとても多く、スーパーが近くにあったとしても坂を上がったり下りたりするので、移送の問題が出てきています。例えば、豊中でも刀根山地区はどこへ行くときも上がるか下がるかしかないということになるので、お買物に坂を下りたら、次、帰っていくときに坂が上がれない。じゃあ、どうしますかと。タクシーも駅前にほとんどない。そういう話が地区で話し合われたときに、みなさんタクシーはどうやって乗っていますかと。タクシーGOを使いますと。タクシーGOはどうやったらいいですかといったら、アプリを入れてください。アプリは分かりません。そしたら、スマホ講座をやりましょうかという話になっていくわけです。じゃあ、スマホ講座で教えてくれる方はデジタル戦略室から来ていただきましょうと言っていたら、今度は、刀根山高校の生徒たちが自分たちも社会貢献したいということで教えてくれるといった話に展開していくということで、いろんな話合いの中で進んでいきます。

また、千里の北丘校区の近隣センターの中のスーパーがなくなりました。その1万人近い方々の買物は千里中央まで出ないと駄目なんです、あのたった20分ぐらいの距離でも荷物を持って歩くというのが、若い人は平気ですけど、そうじゃない人たちがたくさんおられて、押し車でということになると、坂を上がったり下りたり、かなり大変ということになって、そういう地区のニーズが上がってきたら、いろんな企業さんをお願いして、各拠点に移動販売車を週1とかで入ってもらおうというのを進めていくんですが、新鮮な野菜が欲しいとか、いろんなご要望もあるので、それではアグリの移動販売車に来てもらおうかと。

でも、たくさん買ったら持って帰れない。そうすると、今度はモビリティの、現在、豊中市が進めているゴルフのカート、あれに載せて移動してくれるという実験事業がありまして、そことジョイントして持ち帰りをやるところまで一緒にやってみようといったことを民間と連携しながら計画していくわけです。ですから、同じ町でも坂の多い町とか、そうでない町とか、急にスーパーがなくなった町とか、生活課題が違いますので、そこは「なんでも相談」や地域の役員会などでいろいろとお話が出てくるものを生活支援コーディネーターがキャッチして、それに対応するために、いろいろな民間資源を活用する場合がありますし、ボランティアの人たちにご協力いただく場合もありますが、進めていくというやり方ですので、制度をつくるとか事業をつくるとかという、そんな大げさなものではないのですが、支え合いをいろいろ考えて、実験していきます。

ただ、本当に厳しいお話で言いますと、例えば豊中の西部の空港あたりか

ら岡町駅のほうに向かっていく東西方向にはあまり交通手段がないのです。公共交通手段がなくて移動ができないというご相談がたくさんありまして、最初はうちのボランティアの車で送迎するとか、そういうことを考えてやり出した時期もありましたが、今度は交通のことを考えて市の交通対策のところで乗合バスをつくって対応するということに発展しているのもあります。全てが全て支え合いだけでは実動できませんので、そういう問題もより多くの人たちが困ってらっしゃるということになると、今度は行政の事業として運営されていくというふうにバトンタッチするものもあるのかなと思っております。

部会長

ありがとうございました。

今のお話で地域からの声とかニーズと言ってもいいですね、それが出てくることで何とかしようというところがあって、そこがすごく柔軟な対応なんでしょうけど、それを具体的につなげるものもあれば、自分たちだけでできない場合には市の対応が生まれてくるという、そういう形でつながっていくんだなと。全体として先ほどあったのは、担い手が大変という話が出てきていますが、今のお話を聞くと、やっていく中で先ほどのスマホ教室なんかも、例えば高校生が関わってくるみたいな、そういう担い手も開発されていく、そういう循環をつくり出したいという、そのあたりを考えている計画だと理解させていただきました。ありがとうございます。

事務局

どんどんメニューばかり増やしていくというよりは、参加される方たち、今やっていることも先ほど委員がおっしゃったように知らない人がまだまだいますので、コロナ禍で活動控えが広がって、ボランティアをやっておられたりいろんなぐんぐんに来ていた人が、家族に人の集まる所に行くなと止められている人も多いので、今呼び起こしをもう一回してみようというところであります。再認識していただけるようにしっかりと増やしていきたいなと思っています。

部会長

ありがとうございます。

一応計画ですので、皆さんのほうから何か気になるところとか、ご質問、ご意見をお願いしたいと思います。

部会員

介護保険事業者連絡会の事業者も今現在、横のつながりの希薄化というのを非常に課題に思っておりまして、特に施設を持っている事業者さん、デイサービスの事業者さんも、自分の事業所としての機能はあるのですが、地域に根差した活動、横の広がりというものがうまくつくれないだろうかと悩んでいるところがありまして、ぜひそういったところも資源として選択肢の一つとして活用いただけたらうれしいです。私、豊中市理学療法士会の理事も兼任させていただいております、そちらのほうでは介護予防教室やアセスメント支援訪問、そういったところにも協力させていただいているんですけども、地域に入ったサポートや協力がなかなかできていないところもあって、

個人的にはもともと地域の体操教室や体力測定などへの協力をしたいと思う反面、各団体で個々で活動するとすごく事業がばらついて統一感がないようなものになってしまうので、ぜひそういったところで一つの束になって協力できたらなと思っておりました。

事務局

大変ありがたいです。デイサービスではないんですが、サ高住や有料の駐車場をお借りして移動販売しているところはたくさんあります。そうすると、利用者の方も使われて、周りの方も助かるということで一挙両得みたいなのがあります。そんなのが地域ニーズがあったときに拠点のある施設がご協力いただいたり、これまでに働きかけをさせていただいたこともありますので、引き続きそういう連携がいろいろできるかなと思います。

それから、個々で難しいのは何となく私たちもどこの人と付き合ったらいいのかなとちょっと迷うところではあるのですが、ぐんぐん元気塾も全体での勉強会、「ぐんぐんフェスティバル」というのをやっております。みんなで一緒に体操していてちょっと怖いような光景なんですが、そこでは、体の動かし方や機能のチェックなどといった場を持っておりますので、ご支援いただければよいでしょうととてもありがたいです。よろしくお願いします。

部会員

はい、お願いします。

部会員

資料3 ページの4番目のところの生活支援コーディネーター連絡会の開催が月1回というのは少ないなと思っていたら、適当なときに別途設けていると書いてあるので安心しました。あと5ページの「福祉なんでも相談員」というところ、これは同じ校区の人がされているのですか。人がいなかったら他の校区の人が助けているのでしょうか。以上2点お願いします。

事務局

生活支援コーディネーターは他市だと包括を担っている法人さんに委託をされたりしているところもありますが、別法人なので、やっていることについての情報交換が文書を出してみんな集まるみたいな感じになってしまっていて、タイムリーに連携ができないということがあるんですけど、うちの場合は同じ法人内におりますので、都度サポートしたり、1層が2層の人について一緒に現場に行ったりとかということが日々できる体制ですので、ご心配をいただいておりますが何とか頑張っております。

それからもう一つ、「福祉なんでも相談」は一応その圏域、その小学校区の中で守秘義務を守っていただくということを前提で研修を受けていただいた方が相談員になっていただいておりますが、人数の多い少ないは多少あると思います。南部の拠点が今ちょっと実施できてないところがありますが、そのあたりにつきましては、4月以降でまた体制を整えていきたいなと思っています。

部会員

あと、お願いなんですが、ささえ愛ポイントを60歳からにさせていただきたいです。65歳はちょっと遠いなと思っておりまして。その辺の何かをすることときの年齢制限がなかなか厳しいなと思っております。

事務局 若い人たちに支えあいを実施していただかないと担い手の確保につながらないという意見はあります。地区の中で例えばぐんぐんのお手伝いをしてくださっても、65歳以上の人はポイントがつきますが、そうでない人は何もつかないということになると、若い人たちも別に何か欲しいわけじゃないけど何となく分断があるといった話になるのですが、介護保険の財源が基本なので、せめて40歳以上、何かそういうふうな方向性にとというのは、これからの課題かなと思います。重層とか人材確保とか、もうちょっと大きな視野で考えていくと、委員さんが言われているようなことも大きな課題だとは思いますが、ただ財源の問題があるので、どんどん増えたらうれしい悲鳴になるから、行政のほうがそこはどういうふうに判断されるかなという感じではあります。

部会員 今の500円より将来のポイントで、子供が苦しくないようにとは思っています。

事務局 そうですね。

部会員 また、よろしくお願いします。

部会長 ほか、いかがでしょうか。

来年度の計画でもありますので、当事者的な立場ではありますが、豊中市社会福祉協議会さん、何か決意表明的なことがありましたら。

部会員 盛りだくさんのメニューや活動で、また新しい取組みもどんどん取り入れていってやらせていただいているところでございます。生活支援コーディネーター、CSWを兼ねてやっておりますけれども、この事業を進める中で一番の強みは、やっぱり地域の校区福祉委員の方々、地域の方々とのCSWが密な関係になるということでもって、それぞれの地域での課題がすぐにCSW、生活支援コーディネーターに上がってまいります。それを聞きつけると、うちのほうでもって地域に駆けつけて、地域の方々と一緒にその解決方法を考えながらやっていきます。その事業を進めるに当たって、社協の職員がやるのではなく、地域の方々にも一緒に手伝ってもらいながら、その問題解決を進めていきます。

そんな形で何回か繰り返されて、あちこちの地域でこれが行われることによって、今度はCSWが関わらなくても住民がある程度のところまでは解決できたり対応できているというのがあって、その時々課題をまた地域福祉ネットワーク会議の中で5つの領域の中で分けて報告会がありますが、そこで、それぞれの校区、地区の中でできてないことを、あっ、こんな形で進めていったらいいんだみたいな形で共有というか、解決方法をお互いに発表しながら学んでいただいたりというのをやっております。何が言いたいかというと、やはり地域の課題をすぐにつかめる、つかんだら、すぐに解決に向かうという形でやらせていただいておりますので、CSWが生活支援コーディネーターを兼ねているというところが大きな強みかなと思っておるところで

部会長

ございます。今後も頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。それでは、本日の議題はこれで全て終了しましたので、令和6年度第1回生活支援サービス部会を終了いたします。

どうもありがとうございました。